

令和3年度第1回

中津川市総合教育会議 議事録

令和3年12月24日 開会

令和3年12月24日 閉会

中 津 川 市

令和3年度第1回中津川市総合教育会議 議事録

令和3年12月24日

1. 出席者は次のとおりである。

中津川市長 青山 節児
中津川市教育委員会
教育委員（教育長職務代理） 三尾 和樹
教育委員 小栗 仁志
教育委員 田島 雅子
教育委員 橋本 あみる
教育長 岩久 義和

2. 欠席者は次のとおりである。

無し

3. 説明のため出席した職員は次のとおりである。

総務部長 高木 均
総務部総務課長 嶋崎 雅浩
教育委員会事務局長 三宅 竹志
教育委員会事務局次長兼教育企画課長 伊藤 公一
教育委員会事務局調整監兼幼児教育課長 河合 裕
文化スポーツ部長 丹羽 史久
文化スポーツ部次長 松井 嘉之
文化スポーツ部図書館長 小池 孝子
政策推進部長 今井 亨
政策推進部まちづくり推進室長 草野 順樹
市長公室秘書課長 平野 浩司

4. 議事経過は次のとおりである。(午前9時57分)

高木 総務 部長	定刻より少し早いですけれども、皆さんお揃いですので、これより令和3年度第1回中津川市総合教育会議を開会いたします。
	私は、司会を務めさせていただきます、総務部長の高木でございます。よろしく願いいたします。
	本日の会議は、報告事項2件、協議事項1件を予定しており、終了時刻は午前11時40分を予定しております。
	では、次第に沿って進めさせていただきます。 最初に、青山市長から挨拶をお願いします。
青山市長	皆様改めましておはようございます。 本日は大変寒い日になりました。
	日頃より皆様には、子供たちの健全な成長の環境を作る教育現場で、ご尽力賜っておりますことに、厚く御礼申し上げます。
	ワクチン接種というデリケートに扱わなければならない分野で、60人近い職員を各部署から選抜をして、緊急に立ち上げたチームで準備から本番までを迎えてきました。
	これには場所の確保、打ち手となる医療関係者とのスケジュールのすり合わせ、接種を受けられる方への案内、これらに大変時間と労力がかかりましたが、今週の報告では2回目接種された方が、中津川市民の89%と大変高い数字になっています。
	既に3回目の接種が医療関係者から始まり、今は、年明けから始まる一般の方への接種の準備をしているところです。
	また、県内の自治体の感染が落ち着いている中、11月20日に中津川市で感染経路不明者が1名出ました。
	以後、20名近くの方が感染されましたが、そのうちの関連なく発生された方は全て感染経路不明でした。
	また、家庭内感染の中には10歳未満の子供さんも含まれるという状況で、医療現場におきましては対応に時間を割いていただいたところです。
	2年にわたるコロナ対応につきましては、教育現場で子供さんたちを見守っていただき、指導いただく先生方にも様々なご苦労をおかけした1年であったかと思います。
	重ねて感謝を申し上げるところでございます。
	この福岡中学校のこの場所で開催をさせていただきますのは、10月8日にこの場所で新福岡小学校の起工式が行われたということからです。
	そして本日の協議事項になっております市民交流プラザにつきましても、10月11日に起工式が行われました。

これから子供さんたちの教育現場として、また、子供さんたちの集う場所としての工事が始まっています。

本日は会議終了後に、まだ形となって現れるわけではないですが、現地の説明を担当からさせていただく予定になっております。

それでは限られた時間ではございますが、令和3年度の会議を開催させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

高木 総務
部長

ありがとうございました。

続きまして、岩久教育長からご挨拶をお願いいたします。

岩久 教育
長

改めましておはようございます。

年に1回の中津川市総合教育会議の開催に当たりまして、教育委員会を代表して一言ご挨拶をさせていただきたいと思っております。

まずもって、青山市長様にはご多用にもかかわらず、総合教育会議を開催していただき、ありがとうございます。

また日頃は、私どもが行う教育行政はもとより、学校や県の営みに対しても、深いご理解と多大なご支援を賜っております。

併せてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

教育委員の皆さんにおかれましては、今年度も師走の終盤、クリスマスイブの日にお集まりいただくことになりました。

本当にお忙しい中、ご参集いただきましてありがとうございます。

委員の皆さんには、毎月行っている定例の教育委員会のみならず、園や学校、発達支援センターも含めて、たくさんご訪問いただきました。

その度に貴重なご意見やご示唆を頂戴しております。

この点につきましても、併せてお礼を申し上げたいと思っております。

先ほど市長さんからもお話がございましたが、今日は教育委員会から、幼保の適正配置計画と新福岡小学校の建設の進捗状況について報告をさせていただきます。

普段同様、忌憚のないご意見を頂戴できるとありがたいと思っております。よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、新福岡小学校の建設をしているすぐ隣で会議が持てたことは本当にありがたいと思っております。

先ほど、福岡中学校の原校長に、来年もここでやるよ、その次は、新福岡小学校でやるよ。そのように市長さんに話をするとおきました。

快諾でございましたので、最後に付け加えさせていただきます。

今日はよろしくお願いいたします。

高木 総務 部長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは早速ですが、会議に入らせていただきます。</p> <p>なお、この会議の議長は中津川市総合教育会議設置要綱第4条により、市長が務めることとされております。</p> <p>それでは、青山市長、よろしく願いいたします。</p>
青山市長	<p>それでは、要綱の定めにより、議長を務めさせていただきます。</p> <p>会議について、要綱第6条の規定により原則公開となっております。個人の秘密を保つため、又は会議の公正が害されるおそれがあると認めるときは非公開とすることができるとされております。</p> <p>本日の報告事項及び協議事項は、公開しない場合に当てはまる内容は含まれないため、全て公開することといたします。</p> <p>では、次第に沿って進めさせていただきます。</p> <p>次第3 報告事項の1点目、「幼児教育・保育施設適正配置計画について」事務局より報告願います。</p>
河合 幼児 教育課長	<p>それでは、「中津川市幼児教育・保育施設適正配置計画について」ご報告いたします。</p> <p>別紙、A3横長資料の「中津川市幼児教育・保育施設適正配置計画報告」をご覧ください。</p> <p>この資料は、現状を示す一番左の『策定前 令和2年度まで』から完成を示す、一番右の『計画完成時 令和12年度』までを時系列とし、令和3年度の活動を中央にある『令和3年度の進捗状況』で表現しています。</p> <p>なお、全計画の中でどのくらいの進捗状況なのかを見える化する指標を、右から2つ目の表、『全体の進捗状況』で示しています。</p> <p>この資料については、中央の“主な活動状況”、“地域の意見と地域の意見からわかってきたこと等”を継続的に記載し、今後も年度ごとに進捗管理を行い、検証（CHECK）と改善（ACTION）の資料として活用してまいります。</p> <p>左から2つ目の表にありますように、計画では、現在ある20園を10年かけて12園に統廃合・こども園化等するもので、その過程では令和5年度、令和7年度、令和12年度に“動き”があります。</p> <p>令和3年度は、令和5年度に“動き”のある、阿木地区、やさか地区、加子母地区、蛭川地区を中心に各地区において説明会等の活動をしてまいりました。</p> <p>それでは、具体的に各地区の状況をご説明します。</p>

はじめに、こども園化する3地区についてご説明します。

阿木地区では、区長会への説明を経て、保護者説明会を令和4年1月15日に実施する予定です。

次に、加子母地区では、むらづくり協議会、区長会への説明を経て、保護者説明会を令和4年1月22日に実施する予定です。

次に、蛭川地区では、まちづくり協議会、区長会への説明を経て、保護者説明会を12月16日に開催しました。

この3地区については、当初保護者説明会を8月から9月にかけて実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡がりから開催を延期せざるを得なくなりました。

そのため、9月に『こども園とは』という資料を各地区の保護者・子育て世代の方々に配布し、書面にてご意見をいただくことにしました。

その主なご意見を紹介しますと、阿木地区の保護者からは、「はじめてこども園と聞いた時はマイナスイメージだったが、資料を読んでこども園は、幼稚園と保育園の良いところを取り入れた園になると分かり、子どもたちにとっては逆にプラスではないかと思った。

加子母地区の保護者からは、「今後、子どもの数が少なくなってくると思うが、近くの園と統合する予定はあるのか。」

蛭川地区の保護者からは、「幼稚園コースと保育コースに金額の差はあるのか。」といったご意見をいただいております。

これらいただいたご意見は保護者説明会で順次お答えさせていただくことにしています。

続きまして、やさか地区についてご説明します。

やさか地区は、令和5年度に川上保育園と坂下保育園の統合、令和12年度に山口幼稚園と統合する計画です。

川上地区では、まちづくり協議会への説明を経て、川上保育園保護者説明会を10月12日に開催、また、坂下地区でも11月18日に坂下保育園保護者会と打ち合わせを行いました。

川上地区の保護者からは、「地域、地元を感じることができなくなってしまふのは悲しい。坂下でこども園になっても、川上のことも触れ合える行事などがあると良いと思う。」

坂下地区の保護者からは、「やさかとしての文化を出すことは良いこと、やさかこども園と市側で決めてもらって良い」と、それぞれ、統合についてはご理解をいただいている状況です。

今後、2つの保育園の園児・保護者の交流を行い、令和5年度の統合に向けたすり合わせを行っていく予定です。

なお、山口地区につきましては、地域からの要望に応える形で、計画にはありませんでしたが、令和4年4月1日から山口こども園としてスタートする予定です。

そのほか、苗木地区、付知地区においては、「適正配置計画について」や「こども園について」説明をしてほしい、とのご要望がございましたので、説明会を行いました。

福岡地区につきましては、令和5年度に高山保育園を未満児園化し、福岡保育園と統合する計画でしたが、園児数が一定数みえることから、2つの園において園児の交流は進めているものの動きが先になる予定です。

最後に、中津地区ですが、中津川幼稚園、南幼稚園、西幼稚園の中津3幼稚園の統合について、計画では令和7年度を予定しておりましたが、令和4年4月の新入園の応募状況、昨今の出生数の状況に加え、9月18日に施行された「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」を踏まえ、計画を1年前倒し、令和6年度の統合とさせていただきます。

令和3年度は以上のような進捗状況ですが、出生数の状況や社会構造の変化による未満児ニーズの高まり、検証結果、そして、各地域でお話いただいた多くのご意見を踏まえて、今後の計画に反映していきたいと考えております。

以上で報告を終わります。

青山市長

ここにきてこども園化が急速に進んできたという印象です。

山口幼稚園が来年4月1日からこども園になることについては、山口在住の方で保育園に通わせたい方が他の地域の保育園に通っている現状があり、山口幼稚園の園児数も少ない状況です。

したがって、山口幼稚園をこども園化すれば、幼稚園と保育園の選択肢もできるため、山口地区として早期にこども園化を望まれたという経過です。

こうした傾向が他の地域にも広がってきている状況です。

今の説明について、ご意見、ご質問等ありましたらお願いします。

田島委員

最初こども園という言葉が出てきたときは、悪い意見、マイナス意見ばかりでしたが、最近では中津川方式といいましょうか、中津川で親さんのため、子のためということで、よその地域とは違うような、非常に使いやすい形で上手に進めていただいています。

それと皆さんも勉強してくださって、こども園は使いやすいものという風潮が出てきましたので、非常にありがたい流れです。

青山市長	<p>教育委員の皆様のご意見やご要望、ご議論いただいたことが結果として出ていると思っています。</p> <p>ありがとうございます。</p>
橋本委員	<p>私は川上なので、最初に統合する川上のことですが、保育園とか小学校とか教育施設は子供たちのためのものですが、小さな地域にとっては地域のものというか、地域への思い入れが大きいので、地域にとってありがたい存在とかそういう働きもあります。</p> <p>統合というのは子供たちにとっては良いことだと思うのですが、統合するに当たって、使わなくなった保育園施設を地域はどうやって使うとか、保育園が統合すると次は小学校というふうに、住民の方も何となく予想されるので、その辺もフォローしていただけると、ありがたいと思います。</p>
河合 幼児 教育課長	<p>川上保育園の跡地利用については決まっている状況ではないですが、お話いただいたように、地域の方のご意見をしっかりとお聞きする中で、地域のための活用方法を考えていきたいと考えています。</p>
青山市長	<p>田瀬小学校が昨年度から下野小学校と一緒にになりました。</p> <p>地元の方が活用について協議会を立ち上げられ、市外からもアドバイスをいただけるような勉強会を開催しながらやられています。</p> <p>地形的な問題、様々な課題もありますが、そうした声もしっかりと大切にさせていただきながら、活用方法について検討していますので、この施設も同じ方向になると思います。</p>
小栗委員	<p>幼稚園、保育園の部分、適正化配置計画をしっかりと立てていただいていることは本当にありがたく思います。</p> <p>まず、計画を立てるということがとても大切で、立てる上では教育委員会側の思い、地域の方、また保護者、お子さんのことを考えてここまで至ったということで本当に感謝します。</p> <p>中津地区の1年前倒しになっているところが、気にかかる点です。</p> <p>中津地区は比較的小児の数が多いエリアではありますが、そんなところでも小児の数、出生数が少ない。</p> <p>今後もそういう傾向になってくるだろうということで、計画は立てたものも修正しながら令和12年に向けて進めていかなきゃいけないのかなと思います。</p> <p>その中で保育園の適正化もやりながら、お子さんたちは小学校、中学校と</p>

上がってきますので、小学校の適正化、中学校の適正化ということも踏まえての中津川市全体としての教育の配置適正化を、幼保のような計画を立てて考えていくことに着手しないといけないと思います。

いま、福岡地区で進めている中で、全体の学校の適正配置っていうのを考えないといけないと思いました。

青山市長 令和6年への前倒しが気にかかるということですか。

小栗委員 そうですね。

1年前倒しでやらないといけないぐらい子供が減っているということですね。

他の地区でも令和12年までの間に起こり得るのではないのでしょうか。

計画前倒しも、もしかしたら1年ではなくて、もっと前倒しということも起こり得るのではないかと。

青山市長 参考にしていきましょう。

三尾委員 まず、このように早く計画を立案されて、アクションがスタートすることは本当に良いことだと思います。

根本にあるのは、ある程度の子供の数が一緒に集団にあってこそ育つ部分というのがありますので、一つの教室の中に、ある程度の数の園児と一緒に生活し、一緒に学ぶというような環境を作ってあげることが基本にあります。

アクションを起こしますと、メリットやデメリットについて地域の意見が上がってくると思いますので、一つ一つ丁寧に、対応、説明していただきながら、実現を目指していただけるとありがたいと思います。

小学校でも適正な規模が欲しいし、中学校でも集団の中で学ぶ力が付けられるような集団が欲しいし、そこへつなげていけると思いますので、大変だと思いますが丁寧に説明しながら進めていただけるとありがたいと思いました。

青山市長 大変貴重なご意見いただきました。
教育長いかがですか。

岩久教育長 たくさんご意見頂戴しまして、ありがとうございました。
中津川市の幼児教育保育施設適正配置計画については、今年5月に公表さ

せていただきました。

この計画のゴールは令和12年と定めていますが、2年ごとの見直しをすることを明記しています。

それに加えて、今回は1年での修正に踏み切りました。

子供たちが減っている状況や子供たちが来年どこに就園しようとしているかという具体的な動向も加味し、さらに、先ほど課長も申し上げましたが、国の法制等も適用していかなければならないということがあります。

計画ではゴールを12年度、そして2年ごとの見直しということにはなっていますが、スピード感を持って必要な改善は常にしていきたいと思いません。

田島委員

各地域の方々の意見で、園がなくなってしまうことに対して大人たちが寂しいとか、自分たちの地域のことを残したり、新しい園に入れて欲しいというような要望があります。

大人は自分たちが学んだところに、子供たちの声が聞こえなくなる。それは寂しいというように言われますが、子供たちのためには大きな学校が良くて、その地域の大人の役割というのがここに出てくるような気がしています。

子供たちが大きな学校から地域に帰ってきて、地域の伝統とか良さを、地域の大人が子供たちに教え、子供たちは自分の地域の誇りを持って、またいろいろんなところの子供たちと一緒に学ぶ、という形が大人たちにも良いのではないかと思います。

寂しい大人たちをケアするのは、文化スポーツ部の役割だと思います。

大人づくり人づくりということを積極的にやっていますので、どうやって仕掛けるか、例えば地域の大人たちに対して子供たちをこういうふうにして指導したらどうか、このような祭りがあるのでこうじゃないかとか、そういう仕掛けは文化スポーツ部の人づくりの方で園がなくなってしまう地域をケアして、大人たちを奮い立たせながら、そこで地域に誇りを持った子供を作って、そしてみんな大きなところで学ぶ。

そのようにして、上手な連携を取っていければ、地域の大人たちのやることもできる。そのようなことを思っています。

青山市長

その他はよろしいでしょうか。

多くのご意見ありがとうございました。

2番目の「(仮称)新ふくおか小学校建設の進捗状況について」事務局より報告願います。

伊藤教育
企画課長

それでは、(仮称)新ふくおか小学校建設に係る進捗状況について、ご説明いたします

はじめに、ご報告です。資料にはございませんが、昨日の市議会において、「中津川市小学校及び中学校の設置等に関する条例の一部改正について」の議案が可決され、新たな小学校の名称は、漢字の「福岡小学校」とすることと決まりましたので、ご報告いたします。

それでは資料に沿って説明いたします。新福岡小学校は、地域産材を可能な限り多く使うために木材調達を先行発注し、令和5年4月の開校に向けて本体工事を現在進めています。まず、①木材調達の進捗状況について説明いたします。

11月末現在での見込みの状況となりますが、木材調達の総量は、978m³で、その内訳は、集成材・製材品が681m³、合板が298m³となります。

集成材・製材品のうち、県産材は646m³で、95%を占めています。

また、その県産材のうち、99%、材積にして639m³は、市産材で確保できる見通しとなっています。木材調達業者であります丸山木材工業株式会社から第一回目の納品を受け、11月16日にその納品検査を行いました。

残りの木材につきましても、令和4年2月に納品検査を行う予定で、検査合格品から順次、建築主体工事の業者に引渡し、継手加工の工程に入る予定です。

続きまして、②の本体工事の進捗状況について説明いたします。

8月に入札を行い、9月市議会の議決を得て工事に着手しています。

本体工事の施工は、建築主体工事が、中島・岡山特定建設工事共同企業体、電気設備工事と機械設備工事をミリオン電工株式会社が請け負っています。

現在は、準備工・仮設工を終え、基礎を造るための掘削等の土工事に入っている状況です。

また、今後、共同調理場厨房機器購入、共同調理場運搬車購入、木製家具設置工事、渡り廊下及び外構工事を発注していく予定です。

工事全体のスケジュールですが、木材を使った建て方を令和4年4月より開始し、令和5年2月末の工事完了を目指して工事を進めてまいります。

続きまして、③統合準備委員会の進捗状況です。

統合準備委員会は、「総務部会」、「学校運営部会」、「環境整備・PTA部会」の3部会を設置して、調整事項ごとに役割分担し協議を進めていただいています。現在

・「総務部会」では、新小学校の校章や校歌の制作に取り組んでいます。

・「学校運営部会」では、学校備品の点検のほか、図書を選定・廃棄等に

ついて取り組んでいただいています。

・「環境整備・PTA部会」では、スクールバスの運行等について、協議を進めていただいています。

新型コロナで、会議の開催が難しい中、区長さん方や学校、PTAの皆さんが中心となって課題の解決に取り組んでいただいています。

最後に、12月13日現在のドローンによる状況写真を載せております。

10月と比較いたしますと、仮囲いが設置され、土工事が始まっているという状況がお分かりいただけたと思います。後ほど、現場も視察いただきたいと思います。

以上で、新福岡小学校建設の状況の報告とさせていただきます。

青山市長

新福岡小学校は、漢字の「福岡小学校」に正式に決まったという報告がありました。

今の説明の中でご質問等ございますか。

これについては私自身、感慨深いものがあります。

合併した年に、広報無線の「こちらは広報福岡です。」という呼びかけに対して、高山、田瀬、下野の年配の方から、福岡の広報だから関係ないという声を耳にしました。

中学校が統合されて30年になりますが、その頃も同じような議論がされた経緯がありました。

今回名前を付けるということについても、それぞれの意見が出るのではないかという思いはありましたが、最終的には漢字で現在使われている福岡小学校にするという決定をされたことについては、若い方の意見も随分入ってきたのだと思います。今の福岡中学校を卒業された方たちが中心となって、この地域の将来を考えられたのだと思いました。

旧福岡町は各地区に財産区があり、それぞれの地域がその地域を強く意識しているので、今回の漢字で「福岡」が使われたということについては、私も安心しました。

岩久教育
長

工事等については、順調に進んでいると思っています。

今後については、工事というハード面はもちろん大事ですが、ソフト面にしっかり力を入れていきたい、気持ちを込めていきたいと思っています。

一例ですが、令和元年度末に田瀬小学校で1・2年生だった子供たちは、統合して下野小学校に来ています。

この子供たちは、この後、福岡小学校で学ぶことになります。

つまり、小学校6年間を3つの学校で過ごすという子供たちがいます。

あくまでも一例ですが、こういったところまで気持ちを馳せて、子供たちを導いていかなければならないと思っています。

また、定例の教育委員会等でも提示をさせていただきながら、ご意見を頂戴することになるかと思えます。今後ともよろしくお願いいたします。

青山市長

それでは福岡小学校の報告についてはよろしいですか。

続きまして、4. 協議事項に移ります。

それでは、「(仮称) 市民交流プラザについて」事務局より説明願います。

草野まち
づくり推
進室長

政策推進部まちづくり推進室の草野です。

(仮称) 市民交流プラザの施設についてご説明いたします。

10月20日に皆様には概要をご説明しておりますので、本日は要点に絞った説明をさせていただきます。

本事業は中津川市総合計画中期事業実施計画期間の重点施策の一つ「中心市街地に交流や学びの拠点となる施設」の整備です。

施設の基本理念は、「ひと、まち、未来を元気にする 交流と学びとにぎわいの拠点」とし、理念の中には、子どもから学生、社会人、高齢者まで幅広い世代が自然と集まる場、様々な活動が展開しやすい場として利用者を限定しない多目的な利用に対応とすることで、まちなかににぎわいの人の流れをつくるとしています。

また、学びによる「ひとづくり」と世代間の交流を通じた「つながり」を念頭においた施設としています。

施設は4つの機能を融合させた複合施設となっており、子育て支援機能は、安心して楽しく子育てできる環境を整え、子供たちの健やかな成長を支える様々なサポートを実施してまいります。

具体的には、のびのびとした遊びや子育てに関する相談、情報の発信、親同士の横のつながりを紡ぐ活動など、子育てのホットサロンをまちなかに設けるのが狙いです。

市民交流機能は、市民が主役に主体的な活動を活発に広げていく場として、創造的、文化的な活動の発表と交流の場として、様々な用途に対応する部屋や設備を整備します。

具体的には、周辺環境を活かして、大小会議や講演会、展覧会、趣味の練習や上演会や音楽などのイベントを通じて人と人とのつながりを強くし、文化交流のサロンの拠点をつくるのが狙いです。

学び機能は、老朽化し手狭な中央図書館を拡張移転させ、本や情報を通じた新しい知との出会いの場を充実させます。

図書館は、単なる本を集積し、貸出を行うだけのサービスから、人それぞれの活動や関心事、課題解決を手助け、暮らしや心を豊かにするための情報を発信する場所として、広い範囲での役割が期待されます。

ここでは、最新の情報はもちろんのこと、地域が営んできた歴史や文化にまつわる情報を集積、分かりやすく発信し、次の世代の心に写していく作業を担うことを考えています。

観光機能は、地域の観光資源などを発信し、地域の魅力を再発見できるギャラリースペースを設けます。

具体的には、ラウンジに映像や展示、アート、カフェなどを配置して、中津川市の特徴や魅力とマッチさせ、観光客だけでなく市民も何度も楽しめる仕掛けを検討しています。

計画地の概要ですが、旧ユニ跡地を計画地として工事を進めています。

敷地に隣接していた3階建ての建物は撤去を終え、年明けからは杭打ちを行います。

工期は、令和5年3月までとし、令和5年度のオープンを目指しています。

市HPでは工事の進捗状況を写真でアップし、現場には施設完成図を掲げ、完成のイメージを伝えるようにしています。

次に、各フロアの構成や使い方想定などについてご説明いたします。

1階部分からご説明いたします。

中央の玄関を入ると玄関ホールがあります。その向かいにはエレベーターがありまして、階段でも2階に行くことができます。

東側の部分では様々な活動が展開できる部屋が並びます。

活動室1は25人程度の会議等に利用できます。多目的室1, 2, 3はパーテーションで仕切れるようになっており、大人数の会議やイベント、また、少人数の会議等にも利用できます。

活動室2, 3, 4は会議などでも利用できますが、特に防音機能を備えているのでダンスやヨガ、上演会などの利用に対応しています。

全体的にこのフロアは街道と一体となった使い方をコンセプトにしています。

多目的ラウンジとステージを中心に開放的な空間を活用した市民展や夏休みの作品展などに利用することができます。

西側には玄関を入りましてすぐに総合案内窓口があります。

こちらでは部屋の貸し借り、住民票・所得証明、施設案内・周辺案内・観光案内の機能があります。

バックヤードは職員の出入り、大きな荷物の出し入れに対応しており、配本サービス作業室には作業エレベーターを設置しています。

次に2階をご説明いたします。

2階には南側に玄関があります。入りますと玄関ホールラウンジがあります。図書館につきましては後程図書館長から説明いたします。

活動室5・6では、会議や講演会もできますが、ワークショップも展開していただけます。

また、小学校の見学会があった場合等にはこの部屋を拠点として使っていただくことができます。

学習室を隣に設けていますが、テスト期間等で大勢が使うときにはこちらでも使用します。

次に3階をご説明いたします。

3階は子育てに関するフロアです。

東側に子育て支援センターがあります。靴を脱いでいただき、素足で遊んでいただけます。遊び場スペースは17m×11mという大きなスペースとなっており、ゆったりと安心して利用していただけます。

大人用トイレ、子供用トイレ、授乳室も用意しています。保育室で一時預かりを展開していただきやすいスペースを用意しています。

子育て支援センターの隣の活動室は子育てに関する相談などを展開していくことを想定しています。

ラウンジ、エレベーターホールは大きな空間がありますので、木育を中心とした遊び場スペースやお弁当を食べたりできる場になります。

活動室7は調理機能を活用した料理教室を展開するような部屋として使えます。

中央に階段を設けるとともに、東側にも階段がありますので、非常時にはそちらからも避難することができます。西側にも階段がありますので非常時の避難路として3本用意しています。

図書館部分につきましては、図書館長から説明いたします。

小池館長

それでは図書館部分について、ご説明いたします。

2階に一般書、郷土資料、雑誌、新聞を配置し、3階は児童書、絵本のコーナーとなっております。

2階エントランスから入っていただくと返却ポストがあり、ここで返却されますと、自動返却になっており、裏側が事務所となっております。

図書館部分に入りますと、左側にレファレンスカウンターを配置し、こちらの自動貸出機で利用者さんが自身で貸出処理を行っていただけます。

年明けから自動貸出用の I C タグの貼付を始めます。

左側は予約本の受取コーナーで、こちらにも自動貸出機を設置し、ご自身で貸出処理をしていただきます。

こちらの書架には、一般書が基本的には NDC という 0 から 9 の分類に従って配置します。

中山道側には郷土資料を充実させ、新聞雑誌を配置し、こちら側はヤングアダルト中高生向けのコーナーとして、大きなテーブルと中高生向きの本に加えコミックなども充実させ、気軽に集える場所として展開してまいります。

窓際は閲覧していただけるスペースとしています。ある程度の音や話し声は許容範囲として、静かに読書や学習をしたい方は学習室を利用していただく運用とします。

3階へは中央の階段又は中にある階段、エレベーターで行き来することができます。

3階には、児童書、絵本コーナー、お話し会ができるコーナーという空間になります。この部分は靴を脱いでいただくスペースです。

書棚の一部には、子育て関係や料理本など一般書を置き、子育て支援センターにみえた方も気軽に図書館を利用していただける工夫をしています。

設備といたしましては、図書館内にも授乳室、子供用トイレが設置されます。

3階には閉架書庫も設置しています。職員専用の階段、エレベーターで2階と行き来できるよう動線に配慮しています

草野まち
づくり推
進室長

グラフィックによるイメージ動画を用意しましたので、ご覧いただきます。

(動画再生)

草野まち
づくり推
進室長

令和5年3月完成に向けて建設を進めています。今ハード部分について説明いたしました。ソフト部分を充実させていくよう検討しています。

青山市長

イメージ図や動画を使った説明がありました。

イメージしていただけたと思います。

敷地隣接の建物を取得できたことで、この図面のような形にすることができ、それにより効果的な建物になったと考えています。

それでは、ご意見等はいかがですか

三尾委員	<p>ソフト面はこれからとの説明がありましたが、このような施設が街の中心部にできるということについて、市の広報でPRされており住民はご存じだと思います。</p> <p>中心部の方も、中心部から離れた地域にお住いの方も自分たちの施設だという意識を持っていただくことが大事だと思います。</p> <p>そういった意識にもっていく、地理的に遠い人たちへの施策や方法は考えていますか。</p>
草野まちづくり推進室長	<p>どのようにこの施設を使っていただけるかということが大事だと考えています。</p> <p>距離の遠い方にも来ていただきやすい施設にする方法を検討しているところ です。</p>
青山市長	<p>中心市街地活性化計画という名称自体に違和感を持っている方もいます。国の補助金の関係でこのような名称になりますが、中心市街地のための施設を作るという考えではありませんし、実際に街中の団体から常設で活動できるスペースを設けてほしいという要望もありましたが、それについてはお断りさせていただきました。</p> <p>全市民にご利用いただく施設であり、中心市街地に限定した利用をしていただく施設ではないことを説明させていただきました。</p> <p>もう一点、施設は分散するとスケールの魅力は薄れてしまいますので、集約した施設を整備しなければならないと考えています。琵琶湖と同じ面積の中津川市ですので、どこに作るかという問題はどうしても出てしまいます。</p> <p>私は駐車場については、あまり作らないように言っています。</p> <p>中心市街地活性化という事業は、街中の1か所だけを目的にするのではなく回遊していただく目的があります。そのためには一つの施設の周りに多くの駐車場を用意してしまうと動線が生まれません。</p> <p>ただし、この施設では200台近く駐車場を確保できるので、遠くから車で来られる多くの方に利用していただけたらと思っています。</p>
三尾委員	<p>各地区にはまちづくり推進協議会のようなものもありますし、私たちの施設だという意識をそれぞれの地区のまちづくり推進協議会の方にも伝えていただけたらありがたいですし、市長さんがおっしゃったように駐車場等は十分にある上で、買い物をしたり、中山道を歩いたりというような市民の動</p>

きができていくと、素晴らしいと思いました。

青山市長

にぎわいプラザで勉強している学生さんがたくさんいます。通っている子供さんたちが電車やバス、送迎の時間調整の中で活用されているようです。

そういった活用をされている生徒さんが、今度はここで勉強するという習慣を付けていただければ、自分たちの施設という意識も高まってくるのではないかと思います。

市民の皆さんに利用していただけるような準備をしていきます。

田島委員

図面を見せていただいて心配なことがあって、図書館ですが、2、3階には子供のスペースが本当に十分あります。

そして、活動室もたくさんありますが、ボランティアさんとか手伝ってくださる方々の部屋が説明の中にはなかったような気がしました。

もちろん活動室のようなスペースは大事ですけども、それを支えてくださるのはボランティアさんです。その方々がバックを置くところもない、打ち合わせをする部屋もない、ちょっとお茶を飲んだりする部屋もない。

これは非常に問題ではないかと思ひまして、作り替えることができなければ、活動室を一つ潰してボランティアさんの部屋にするとか、そのような考えはいかがでしょうか。

草野まち
づくり推
進室長

説明が不足しておりましたが、2階のフロアにボランティアさんを中心とした朗読サービスを展開しやすい部屋、活動室9は展開によっては様々に使えますけども、ボランティアさんを今後充実させていく中では、ここを拠点とした部屋として整備していくことを念頭に置いた設計をしています。

田島委員

そうすると、活動室というかボランティア室というような。

草野まち
づくり推
進室長

活動室5・6もボランティアさんが個別で対応する場合や連携する場合がありますので、人数に応じて20人部屋が2つ、パーテーションをとって40人というふうな形で想定しています。

田島委員

ありがとうございます。

人が大事だと思いますので、よろしくをお願いします。

橋本委員

規模適正化でもあったように少子化が進んでいくのに、3階の子供スペースが広くて、学習室が小さいというのは今後の人口のバランスに合っている

のか気になります。

草野まち
づくり推
進室長 学習室は40名を収容する設計になっています。ここでは集中して学習する場としていますが、他にも120ほどの閲覧席を用意していますので、子供さんにかかわらず多くの方の居場所としては図書館の方にもあります。

人口は減っていますが、現在図書館を使われていない方にも使っていただき、満員になるような目標にしています。

小栗委員 詳しい説明をありがとうございました。

以前、教育委員会でお話させていただいたことと重複しますが、まず非常に楽しみです。どんなものができるのか、早く使いたいという思いがあります。

活性化していくということが大切だと思います。これでハードはできますがソフトをどのようにそこに入れていくかということです。

基本理念にもありますが、交流と学び、にぎわいの拠点という、にぎわうということ、活性化とは人がそこにいて、いろんな形で交流をする。

一つの拠点となって、いろんなところを回遊しながら活性化を作っていくという、そこで一つ町ができるということだと思います。

この市民交流プラザが一つできると、その他の町をどうやって作っていくかということだと思います。

にぎわい広場をどうやって生かしていくか。中央公民館とか、せっかくある中山道をどうやって活かしていくかというのは市民にとっても、また観光客にとってもランドデザインを持つべきだと思います。

その中で、先ほど委員もおっしゃったように、中津川市民にここを使ってみようと思ってもらえるハード面も必要ですし、どんなイベントをやっていくかとか、例えばどんな人を呼ぶかとか、そういったことをこれからは考えていかなければいけないと思います。

ハードができて満足してしまうところがありがちなので、今のうちからどのように活用していくかということも考えていかなければいけないと思います。

もう1点、もう少し外の活用をするべきだと思います。

岐阜市の図書館は、コンセプトは公園とされています。

中でいろいろとできることもあれば、天気の良い日は外で何かできる。六斎市をやるようなときは中山道側を開放して連携するというのは良いと思いますが、反対側の方です。そちらの方も緑があって、ちょっとした広場もあって、天気良ければお子さんがお母さんと弁当食べるとか、お年寄りの

方が日向ぼっこをすとか。

テラスも良いですが、グラウンドの部分にも何かあると、より使い勝手がトータルとして良くなっていくのではないかと思うので、できれば取り入れてもらいたいと思います。

青山市長

回遊性のある動線を作るためにはエリアとして考えていかなければいけません。

岐阜市は金神社を活用した中で、一体化して公園を作っています。

熊谷守一画伯の関連で豊島区長さんと岐阜市長さんと話す機会がありました。

豊島区というと池袋のイメージがありますが、街づくりの中で目玉となる公園を4つ作って、これを回遊するような形で、今やっています。

岐阜市も同じような形で取り入れています。メディアコスモスから金華山までは距離がありますが、金華山の木を伐採して、昔の城がある景色を出して、麓の公園までも一体とした中で地域を作っています。

私も同じ考えで、中心市街地というエリアを作るためには、この建物だけに集中して作れるとは思っていませんので、本町から太田町、旧国道19号まで広げた中で雰囲気を作っていきたいと考えています。

そのためにはメインとなってくる新町、本町を景観を含めた中で、快適に回遊、周遊できるところまで持っていかなければいけないと考えており、この施設がその起爆剤になればという思いです。

田島委員

図書館について本のキャパが少ないというようなことが伝わってきています。

これは全く論外で、本の数がどれだけあっても図書館の役割は違うということがしっかりここに書いてあります。

2ページの右上の図書館の役割というもの。貸し借りだけではなくて、市民の生活に役立つあらゆるものを図書館から発信し、そして図書館でもらって、そして自分の生活に生かしていくというようなことが図書館の役割として書いてあります。

これは貸し借りだけではなく、大事な部分だと思います。

例えば本の数がいくらあっても、55万冊いたら60万冊欲しい、他の図書館は70万冊あるから、ということではなくて、図書館は貸し借りだけの役割ではないということを伝えて、市民の頼りになる図書館として交流プラザにある図書館という位置付けをしっかりとさせていただきたいと思います。

市民を導いていくためには、短期ではなくて中期、長期の目標を作りながら導いていく、仕掛けていくということが大事だと思います。

ところが、図書館員さんたちは異動がありますね。

東近江の図書館では、図書館に就職したからには、その図書館に最後までいる。その人たちから伺った意見では、何でもできる。自分の思っていることを中期、長期で計画を立てていきながら、それをじっくりとやっていくことができる、そんなことを聞きました。

専門職として図書館の方を採用していただいて、ずっと図書館業務に携わっていただけるようにしていただければ、もっと充実した図書館ができていくのではないかというふうに思いました。

青山市長

最近メディアコスモスにお邪魔したところですが、ラフに使っているという言い方は適切ではないかもしないですが、そのように感じました。

それは館長の方針と伺いました。

私は、前の図書館論争の中で市長になりましたので、これには触れないわけにはいかないですが、最終的には当時の市長さんが一人悪者になっているようなところがあります。これは市長一人が悪かったのではなく、市民の皆さんも悪かったと思います。

その議論の中では規模や古さなどが挙がりましたが、図書館の古い新しいというのは機能とは関係のないことであり、自分たちがどのように活用して、どのように子供たちが知識を付けていける場を作るかということです。

図書館を特別な場所ではなくて、気軽に足を運んで、何か自分のヒントになるようなものがあれば、本を取って読んでみるというような、そういった使い方も一つの方法だと思います。

館長、一番長い職員は何年ぐらいですか？

小池館長

正規職員ですと、トータルで5、6年です。

青山市長

5、6年しかないですか。

小池館長

そうですね。

会計年度任用職員ですと20年近くいる職員がいます。

田島委員

何人かしっかりと夢があって、上手にやっていただければと思います。

青山市長

参考にさせていただきます。

文化スポーツ部長、意見があればお願いします。

丹羽文化 スポーツ 部長	<p>ありがとうございます。</p> <p>図書館は情報を収集、発信の場として、施設が新しくなると今までとらわれていたものではなく、もっと楽しいものにしなければいけないと思いますので、アドバイス、助言をいただきながら考えていきたいと思います。</p>
田島委員	<p>もう一ついいですか。</p> <p>はっきり見えてない部分があって、市民交流プラザ館長っていうのは居るわけですか。</p>
青山市長	<p>施設の総括統括責任者であり、施設はもちろんエリア全体も考えた中で、街づくりのマッチングができる人を総括として考えています。</p> <p>図書館があり、民間の方も入る可能性もありますけども、公民館の総括がいて、それぞれのところに館長を置くような形になるというふうに考えています。</p>
田島委員	<p>器はできて、入る部署が決まってきて、しかし、自分たちのやりたいことをやるだけでは寄せ集めですね。</p> <p>その面倒はしっかりしていただいて、せっかく「交流」と付いた交流プラザですので、みんなで集まって交流の仕掛けをしっかり作っていかないといけないですね。</p>
青山市長	<p>六斎市というきっかけはありますが、残念なことに旧町村の方に出店してくださいと話す、地元で人を呼ぶから出店しなくても良いということと言われることがあります。</p> <p>六斎市はこれまで百何十回開催して定着しており、六斎市を盛り上げれば六斎市だけではなく、いろんな所へ効果が波及するので、もっと多くの方に地元に来ていただくために六斎市を使ってPRしてもらいたいと思います。</p> <p>市外の方も大勢来ていて、特に長野県の方に結構来ていただいています。</p>
橋本委員	<p>先ほど市長は、駐車場をそれほど作る予定はないと考えているとおっしゃっていましたが、私も他の方も仕事で銀行や本屋さんなどに行ったりする時に資料図面⑨とか⑩の駐車場に車を停めていました。</p> <p>最近、郵便局の駐車場も縮小してしまいましたし、図書館ができることで建物は充実しますが、図書館以外のお店とかに行くときの駐車場がなくなっ</p>

てしまいました。

青山市長

無料駐車場が前提ということでしょうか。

橋本委員

有料でも良いのですが、有料もあまり無いように思います。

草野まち
づくり推
進室長

現在、外構の計画を立てているところで、今後、駐車場の考え方もつめて
いきたいと思います。

岩久教育
長

(仮称) 市民交流プラザ楽しみにしています。

教育委員会としては、長年絆プランということをやってきました。

親子読書や読み聞かせからスタートして、子供たちにより良いブックスタ
ーをさせて、人生の傍らに本があるという人育てをしてきました。

少しずつ成果は出ていると思います。

例えば、小中学校の子供たちの読書量は年々増えています。

市からも学校図書館司書を配置する予算を作っていただけであり、その結
果が形となって出てきています。

中学校には、合唱委員会や給食委員会など、様々な委員がありますが、意
外と人気な役職が図書委員長です。

そういう子供たちが絆プランの中で育っていると実感しています。

これが大人世代まで続いているのか、まだ見えていません。

高校生ぐらいになると、あまり本を読まないとか、ネット環境に入ってい
くことも多いです。中津川市が教育の根幹に置いている絆プランの拠点とな
るような、そんな施設にもなってほしいと思っています。

加えて本に親しむ子供さんたちがこれだけ増えてきているので、例えば、
土日などは、この館自体の運営に子供、例えば、中学校3年生とか高校生、
彼らに関わってほしいと思います。

休みの日に市民交流プラザに行くと、高校生たちが元気よく、明るく爽や
かに立ち回ってくれていて、気持ちよく案内している。気持ちよく説明して
いる。

そんな子供が活躍できる施設になると嬉しいと思います。

地域にいる子供たちが活躍している。

いろんな世代が集まってくる。

気持ちのいい時間が過ごせる。

そんな施設になっていくと、にぎわいが広がっていくと思い、大いに期待
しています。

青山市長	<p>それでは協議事項について、締めさせていただいてよろしいでしょうか。本日の協議事項は以上ですので、これにて議長を降りさせていただきます。</p>
高木 総務 部長	<p>ありがとうございました。 それでは、次第5.「その他」に入ります。 委員の皆様からご意見等がございましたら、ご発言をお願いします。</p>
田島委員	<p>先ほども丹羽部長に向いてお話したんですけども、人づくりに関わる部署というのが中津川市では文化スポーツ部だけということで、市民の方々には文化とスポーツとしかとれていない部分があって、生涯学習文化スポーツ部とか、人づくり生涯学習文化スポーツ部とか看板を書き換えて、ここは人づくりをやってくれるところだと。大人をしっかりと育ててくれる場所だと、そのように看板を書き換えていただければ、すごく分かりやすくなるのではと常々思っております。</p>
青山市長	<p>文化、スポーツの人づくり、それから地域で活躍していただく人づくりもあると思いますが、そういう意味では文化スポーツ部だけではなく定住推進部でも力を入れています。</p>
田島委員	<p>生涯学習が付くと良いと思っています。 ありがとうございます。</p>
高木 総務 部長	<p>その他はよろしいでしょうか。 それでは少しお時間いただきまして、市長公室より中津川市制70周年記念事業についてご説明をさせていただきます。</p>
平野 秘書 課長	<p>こんにちは、市長公室秘書課長の平野と申します。 本日は、貴重なお時間をいただきましてありがとうございます。 それでは、市制70周年記念事業について説明させていただきます。 来年、令和4年に中津川市は、市制70周年を迎えます。 70周年のテーマを「つなげる ～70周年、そして未来へ～」としました。このテーマに込めた思いは、先人たちがつなげてきていただいたおかげで70周年を迎えることができますが、現在は、少子化、人口減少、新型コロナウイルスの影響等により、人とのふれあいやコミュニケーションの機会</p>

が減少し、人や地域とのつながりが薄れつつあります。そんな今だからこそ、人や地域がつながることで、80周年、100周年と未来につなげて行きたいという思いを込めました。

このテーマに基づき、中津川の未来を担う子供たちに関連する2つの事業を計画していますので、それらについてご説明いたします。

1つ目は、市内30の小・中学校の児童・生徒さんを対象とした事業です。

内容としましては、自らの学びや後輩たちにつなげていきたい母校や地域の歴史など、学校毎に子どもたちが主体となって、企画立案した取り組みを支援するものです。

想定している取組例としましては、

- ① 新福岡小学校が令和5年度に開校する福岡地区では、統合前の各校で、自校の歴史を自分たちでまとめる取組
- ② 他には、SDGsに関する学習
- ③ 通学路や地域の危険個所を調べて地域の危険マップを作成するなど子供たちが自分たちで考えた様々な学びに関する取組です。

先生方には、子供たちの考えをうまく導き出しながら企画立案していただきたいと思います。

詳細については、今後、教育委員会事務局や校長会に相談しながら詰めていきます。

2つ目は、小中学生とともに中津川の未来を担っていただきたい高校生を対象とした取組です。

市制70周年記念式典を来年の5月14日に中津川文化会館で開催を予定していますが、市内5つの高等学校の生徒さんたちに式典への参画を打診し、各校から了承をいただいています。

参画内容としては、式典参加者へのおもてなしや参加者への記念品、司会進行、テーマの掲示、アトラクションへの出演などです。

各校の特徴を生かした中で、参画いただきたいと考えています。

以上、2つの事業について説明を終わります。ありがとうございました。

高木 総務
部長

それでは、「その他」を終了いたします。

以上で、本日予定しておりました日程は終了いたしました。

これもちまして、令和3年度第1回中津川市総合教育会議を閉会いたします。

ありがとうございました。

閉会 （ 午前11時46分 ）

上記の会議の経過を記載してその相違ないことを証するため、ここに署名する。

〔署名欄〕
